



子育てヒント

子どもは、成長するにつれて自主性が出てきて、自分で選択や決断をしたがるようになります。そのため、子どもが言われたとおりにやってくれるとは限りません。子どもが言うことを聞かない時には、止めてほしい行動に対して親が同じ対応で教えていくことが大切です。

また、子どもは注目を得る行動を繰り返す傾向があります。子どもが言うことを聞かない時に、親がいつも以上に注目していることがありますか。例えば、止めてほしい行動に対して何度も何度も注意を繰り返し注目することもその一つです。注目されていることが子どもにとって褒美になっている場合があります。是非、やってほしい行動の時に注目しましょう。



例) きょうだいでブロック遊びをしている時の注目

やってほしい行動を親子で約束します「二人で仲よくブロックで遊ぶ」できていたら具体的にほめる。

○	<p>きょうだいで、ブロック遊びをしています。子どもの近くに行き「二人で仲よくブロックで遊んでいるね」とほめます。さらに、時間をおいて(ケンカが始まる前に)子どもの近くに行き「二人で仲よくブロックで遊んでいるね」と繰り返しほめます。</p>
×	<p>きょうだいで、ブロック遊びをしています。しばらくすると「ママ～、お兄ちゃんが貸してくれない」の泣き声で二人のところに行き「どうしてけんかするの?お兄ちゃんなんだからブロックを貸しなさい」と注意する。またしばらくすると「ママ～」の泣き声に、二人のところに行き注意する。</p>

※ まず、やってほしい行動を注目しましょう。子ども同士のささいな意見の違いなどは、どのような解決方法があるかを教えたり、子どもと話し合っってルール決めをして学ぶ機会をつくりましょう。



指示が伝わりにくい時に「子どもが言うことを聞かない」場合がある

多すぎる	例)「急いで、ご飯を食べて歯みがきしてね。 9時頃に、おばあちゃんが来るから、 着替えをして脱いだ服は洗濯機に入れてね」
少なすぎる	例)「道路では車に気をつけてね」
難しすぎる	例) 子どもが一人で大掃除をする
タイミングが悪い	例) 大好きなテレビ番組の途中
あいまいすぎる	例)「ふざけないでね」「いい加減にして」
混乱させる態度	例) 笑いながら「やめなさい」と言う



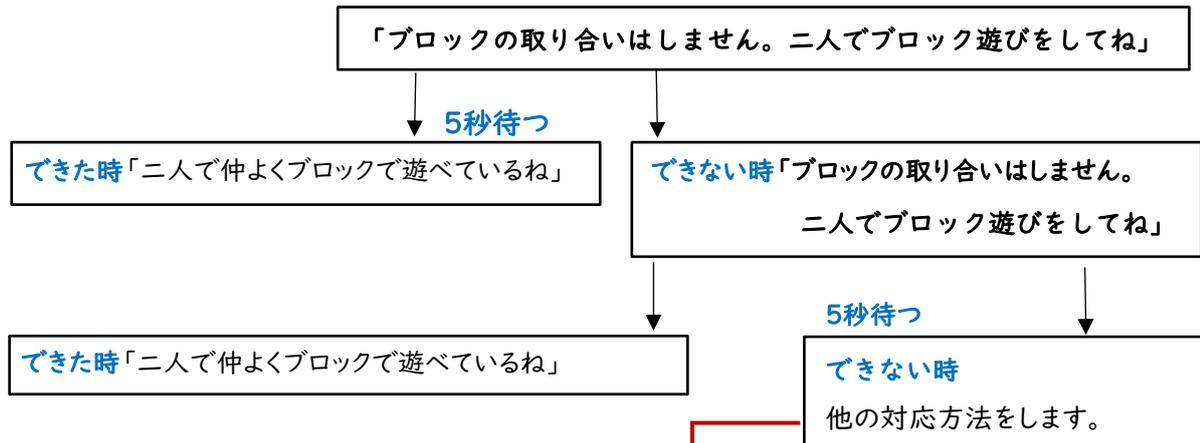
■ 子育て技術

はっきり穏やかな指示

(子育て手帳 P. 35 を参考にしてみましょう)

子どもにはシンプルで分かりやすい指示の出し方が大切です。子どもに近づいて「何をしてほしいか」を伝えます。そしてできたらほめましょう。指示を出す時は、腕の長さの距離です。

例) ブロックの取り合いをしている



■ 子育て技術

問題に応じた結果で対処する

(子育て手帳 P. 36 を参考にしてみましょう)

問題の中心となる活動(おもちゃ)を取り上げます。

- ① 「取り合いをするので5分間ブロックで遊ばせません」と伝えて、ブロックを取り上げます。
- ② 時間がきたら「5分経ったのでブロックで遊んでいいよ」と伝えて、ブロックを戻します。
- ③ 遊び始めたら「二人で仲よくブロックで遊べているね」とほめます。

※短い時間で活動(おもちゃ)を戻すことは、
子どもに良い行動を学ぶ機会を与える為です。



※「子育て手帳」は、市が開催する「おはなし会」に参加いただいた時にも配布しています。



市の「前向き子育て応援事業」の情報はコチラ

■ お問い合わせ 子ども未来課 子育て支援係 ☎ 28-7568

(前向き子育て 担当 石橋)

科学研究費助成事業(責任者 福岡県立大学 江上千代美)

無断複写・複製を禁ず